

ハイブリッド学習

中華人民共和国・深圳日本人学校

I 前提

学校環境

- » 校内 Wi-Fi 設置
- » ビデオ会議用などの集音マイク
- » 各教室に天井吊り下げ式大型モニタ設置
- » ロイロノート・スクールを導入
- » 電子黒板を導入
- » タブレット用のマウス、キーボード、タッチペンを導入
- » タブレット端末を使用可能

課題と目標

<課題>

新型コロナウイルスの影響を受け『オンラン授業』、『ハイブリッド授業』を実践してきた中で、以下が課題となった。

- ① オンライン授業において、児童生徒の学習状況が対面授業のように観察できないため、学習におけるつまずきや興味関心を捉えがたいこと。
- ② オンライン授業において、配信に利用したアプリ（Zoom）のみでは資料提示や説明など場面ごとに画面の切り替えをすることが多くなり、児童生徒はそれに慣れず、結果説明が分かりづらいと感じること。
- ③ ハイブリッド授業において、授業者はオンライン授業と対面授業の児童生徒の状況を一遍に把握することが難しいこと。また、児童生徒も授業者と視線が合う回数が少ないため集中力を持続できないこと。

<目標>

これらの課題の改善に ICT 機器を用いることで、非常時でも途切れない『学びの保障』の構築を目指す。

2 実践の内容

活用した ICT ツール

ICT 機器	集音マイク、ビデオカメラ、PC、大型モニタ（映像配信、児童生徒の状況の確認用） タブレット用のマウス、キーボード、タッチペン、電子黒板（教師の指導用）
ネットワーク	校内 Wi-Fi
使用アプリ	Zoom、ロイロノート・スクール

具体的な活用方法

1. 当初のハイブリッド形式の授業について

教室にいる児童生徒は通常通り黒板を前にして授業を受け、遠隔で授業を受ける児童生徒は Zoom を通して授業に参加する。カメラは黒板方向を捉えているため、遠隔での授業参加者は黒板と授業者の様子を見ることができるので対面授業のように

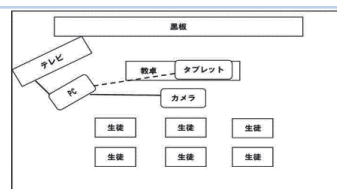


図1
(図1の傍線は有線、点線は無線での接続を意味する)

参加することができる。

また、Zoomに参加しているPCとテレビを接続し、Zoomの様子をテレビモニターに映す。その時Zoomはギャラリービュー（ホストを含め複数の参加者を1つの画面の中に映す見え方）を選択する。

教卓上のタブレットもZoomに参加しこちらはスピーカービュー（発言中の者を大きく映す見え方）として接続しておくことで、対面と遠隔で授業を受ける児童生徒がなるべく一体となれる工夫をした。

※この方法でもハイブリッド授業として成り立ってはいたが、遠隔で授業を受ける児童生徒の学びの質をより高め、対面授業に近い環境をつくるため、以下のようにICT機器を活用し改善を施した。

2. ロイロノート・スクールの活用

【課題】①の改善のためロイロノートを導入。図2のようにロイロノートの提出機能を使うことで学習状況を一遍に把握することができた。

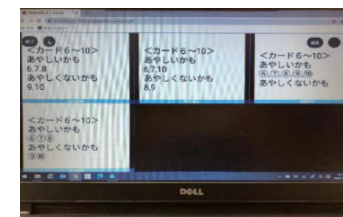


図2

3. 電子黒板の活用

【課題】②の改善のため電子黒板を導入。資料提示と説明を同時におこない切り替え場面が少なくなり、見ている児童生徒の負担が軽減されただけでなく、図3のように画面いっぱいに表示された画面に直接補足を書きこめるため、よりわかりやすく説明できるようになった。



図3

4. ロイロノートとZoomなど、様々なアプリを組み合わせた活用

図4はZoomとロイロノートをPC上で表示させている様子である。

このように【課題】③の改善のためZoomを電子黒板上に表示させたり、他の端末でも表示させたりと様々な試みをしている。

電子黒板を1クラスに複数台用意することができれば画面も大きく見やすくて分かりやすい環境にはなるが、場所や予算の確保など現実的に難しい。

よって、よりよい授業環境のため様々なアプリや端末を組み合わせた研究を続けていくことが大切である。

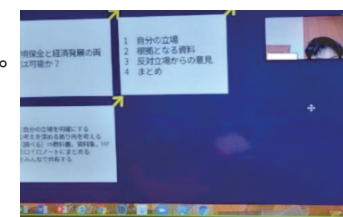


図4

3 成果

ICT ツールを活用したことでできるようになったこと

- » ロイロノートは提出箱の一覧表示機能で児童生徒のつまずきや興味などの学習状況を把握できるようになり的確に指導できるようになっただけでなく、学習の記録を貯めていけるので、このつまずきや興味を蓄積し時間をかけて分析することで個別最適化学習へつなぐことができる。
- » 電子黒板は教材を映し出すことでの説明の容易さだけではなく、遠隔で授業を受ける児童生徒の教材不足を補うこともできる。また、教科書を映し出すことで指示を視覚的に理解することができ、授業進度の遅れが少なくなる。

児童生徒、教師、保護者の反応

遠隔で授業に参加した中学3年生にインタビューしたところ「Zoomの画面共有で資料を示されていた際は見えづらく説明も分かりにくかったが電子黒板を用いての説明は非常に分かりやすかった」と述べていた。